

「石垣島紀行 (2)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

【1日目/5月22日(つづき)】

今回の石垣行の航空券は、右側の窓際の席を指定しておきました。富士山や列島沿岸の風景を見たかったからです。しかしこの日は梅雨前線がやや北上していて雲が多く、富士山も沿岸の風景もあまり期待していませんでした。



しかし、富士山だけは期待をうらぎりませんでした。雲海の上に富士山が顔を出しています。ちょうど機長が「ただいま、右側に富士山が見えております」と、親切にアナウンスも入りました。



「頭を雲の上に出し・・・」という童謡の歌詞そのものになっています。富士山以外の「地表」は一切見えなかったため、この時山頂にいた登山者は、360度雲海の絶景を見ていたはず。この便には外国のお客さんも多く、相当に興奮していました。



この飛行機には座席モニターはついていませんでしたが、スマホの機内モードで無料のWiFiが使えます。旅客機が今どこを飛んでいるかというアプリで、現在地を知ることができます。現在地だけでなく、高度、対地速度、到着予定時刻なども表示されます。天気が良くて地上の風景が見えるフライトだと、地形と照合できて大変便利です。



私の席はエンジンのすぐそばで、もともと地上の風景はあまり見えない席でした。高度4万フィートを超えると、ほとんどの雲は機体よりも下に見えます。このような位置関係の時に、機体の上部や斜め上から太陽光が当たると、雲の上に色のついた光環が現れることがあります。

これは「ブロッケン現象」の一種です。ブロッケン現象は、山岳の尾根の片方が晴れ、片方が霧というような気象条件の時に、登山者の影が霧に投影されると見られることがあります。「ブロッケンのおぼけ」とか「ブロッケンの妖怪」という異名もあります。登山者が手を振ると、妖怪も手を振るのです。初日から面白い現象を見ることができました。